

学校法人野上学園

ブレーメン動物専門学校



2021年度

年間授業計画（シラバス）

別表1 ペットビジネス学科

1年次 科目	コース								担当教員 実務経験 有無
	トリマー		動物看護		トレーナー		総合		
		時間		時間		時間		時間	
グルーミング学 I	○	15	○	15	○	15	○	15	○
グルーミング実習 I	○	90	○	90	○	90	○	90	○
動物形態機能学	○	120	○	120	○	120	○	120	○
動物繁殖学	○	30	○	30	○	30	○	30	○
動物病理学	○	30	○	30	○	30	○	30	○
動物薬理学	○	60	○	60	○	60	○	60	○
動物感染症学	○	90	○	90	○	90	○	90	○
動物医療関連法規	○	30	○	30	○	30	○	30	○
公衆衛生学	○	60	○	60	○	60	○	60	○
動物人間関係学	○	30	○	30	○	30	○	30	○
動物福祉・倫理	○	30	○	30	○	30	○	30	○
動物行動学	○	30	○	30	○	30	○	30	○
伴侶動物学	○	60	○	60	○	60	○	60	○
産業動物学	○	45	○	45	○	45	○	45	○
実験動物学	○	15	○	15	○	15	○	15	○
野生動物学	○	30	○	30	○	30	○	30	○
飼育管理学	○	30	○	30	○	30	○	30	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○	15	○	15	○	15	○
必須受講時間		810		810		810		810	
犬種別ペットクリップ	○	120					△	120	○
グルーミング実習 I	○	180					△	180	○
ハンドリング学 I	○	30					△	30	○
ペット造形学・美学 I	○	120					△	120	○
動物看護学概論			○	60			△	60	○
内科動物看護学			○	30			△	30	○
外科動物看護学			○	60			△	60	○
臨床動物看護学総論			○	30			△	30	○
動物臨床栄養学			○	60			△	60	○
動物臨床検査学			○	60			△	60	○
動物医療コミュニケーション			○	60			△	60	○
動物形態機能学実習			○	90			△	90	○
ドッグトレーニング理論 I					○	30	△	30	○
服従訓練 I					○	180	△	180	○
アジリティ I					○	120	△	120	○
総合トレーニング実習 I					○	120	△	120	○
必須受講時間		450		450		450		450	
合計		1260		1260		1260		1260	

2年次 科目	コース								担当教員 実務経験 有無
	トリマー		動物看護		トレーナー		総合		
		時間		時間		時間		時間	
動物飼育実習Ⅰ	○	30	○	30	○	30	○	30	○
動物飼育実習Ⅱ	○	45	○	45	○	45	○	45	○
グルーミング学Ⅱ	○	15	○	15	○	15	○	15	○
グルーミング実習Ⅱ	○	90	○	90	○	90	○	90	○
ボランティア学	○	15	○	15	○	15	○	15	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○	15	○	15	○	15	○
必須受講時間	210		210		210		210		
犬種別ペットクリップ	○	180					△	180	○
犬種別ショークリップⅠ	○	180					△	180	○
犬種別ショークリップⅡ	○	180					△	180	○
ハンドリング学Ⅱ	○	30					△	30	○
ペット造形学・美学Ⅱ	○	30					△	30	○
グルーミング実習Ⅱ	○	330					△	330	○
臨床動物看護学各論			○	120			△	120	○
内科動物看護学実習Ⅰ			○	90			△	90	○
内科動物看護学実習Ⅱ			○	90			△	90	○
動物臨床検査学実習Ⅰ			○	90			△	90	○
動物臨床検査学実習Ⅱ			○	90			△	90	○
外科動物看護学実習Ⅰ			○	90			△	90	○
外科動物看護学実習Ⅱ			○	90			△	90	○
臨床動物看護学実習			○	90			△	90	○
動物看護総合実習			○	180			△	180	○
ドッグトレーニング理論Ⅱ					○	30	△	30	○
服従訓練Ⅱ					○	360	△	360	○
アジリティⅡ					○	270	△	270	○
総合トレーニング実習Ⅱ					○	270	△	270	○
必須受講時間	930		930		930		930		
合計	1140		1140		1140		1140		

※ ○必須 △選択必須

【実務経験のある教員による授業時数】

2年間合計 2400 時間

別表1 ペットマイスター学科

1年次 科目	コース				担当教員 実務経験 有無
	グルーマー		教員		
		時間		時間	
グルーミング学 I	○	15	○	15	○
グルーミング実習 I	○	90	○	90	○
動物形態機能学	○	120	○	120	○
動物繁殖学	○	30	○	30	○
動物病理学	○	30	○	30	○
動物薬理学	○	60	○	60	○
動物感染症学	○	90	○	90	○
動物医療関連法規	○	30	○	30	○
公衆衛生学	○	60	○	60	○
動物人間関係学	○	30	○	30	○
動物福祉・倫理	○	30	○	30	○
動物行動学	○	30	○	30	○
伴侶動物学	○	60	○	60	○
産業動物学	○	45	○	45	○
実験動物学	○	15	○	15	○
野生動物学	○	30	○	30	○
飼育管理学	○	30	○	30	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○	15	○
必須受講時間		810		810	
犬種別ペットクリップ	○	120	△	120	○
グルーミング実習 I	○	180	△	180	○
ハンドリング学 I	○	30	△	30	○
ペット造形学・美学 I	○	120	△	120	○
動物看護学概論			△	60	○
内科動物看護学			△	30	○
外科動物看護学			△	60	○
臨床動物看護学総論			△	30	○
動物臨床栄養学			△	60	○
動物臨床検査学			△	60	○
動物医療コミュニケーション			△	60	○
動物形態機能学実習			△	90	○
ドッグトレーニング理論 I			△	30	○
服従訓練 I			△	180	○
アジリティ I			△	120	○
総合トレーニング実習 I			△	120	○
必須受講時間		450		450	
合計		1260		1260	

2年次 科目	コース				担当教員 実務経験 有無
	グルーマー		教員		
		時間		時間	
動物飼育実習Ⅰ	○	30	○	30	○
動物飼育実習Ⅱ	○	45	○	45	○
グルーミング学Ⅱ	○	15	○	15	○
グルーミング実習Ⅱ	○	90	○	90	○
ボランティア学	○	15	○	15	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○	15	○
必須受講時間	210		210		
犬種別ペットクリップ	○	180	△	180	○
犬種別ショークリップⅠ	○	180	△	180	○
犬種別ショークリップⅡ	○	180	△	180	○
ハンドリング学Ⅱ	○	30	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅱ	○	30	△	30	○
グルーミング実習Ⅱ	○	330	△	330	○
臨床動物看護学各論			△	120	○
内科動物看護学実習Ⅰ			△	90	○
内科動物看護学実習Ⅱ			△	90	○
動物臨床検査学実習Ⅰ			△	90	○
動物臨床検査学実習Ⅱ			△	90	○
外科動物看護学実習Ⅰ			△	90	○
外科動物看護学実習Ⅱ			△	90	○
臨床動物看護学実習			△	90	○
動物看護総合実習			△	180	○
ドッグトレーニング理論Ⅱ			△	30	○
服従訓練Ⅱ			△	360	○
アジリティⅡ			△	270	○
総合トレーニング実習Ⅱ			△	270	○
必須受講時間	930		930		
合計	1140		1140		

3年次	コース				担当教員 実務経験 有無
	グルーマー		教員		
		時間		時間	
動物飼育実習Ⅲ	○	60	○	60	○
グルーミング学Ⅲ	○	45	○	45	○
グルーミング実習Ⅲ	○	120	○	120	○
犬種別ペットクリップⅢ	○	75	○	75	○
犬種別ショークリップⅢ	○	120	○	120	○
ボランティア学	○	30	○	30	○
必須受講時間		450		450	
トリミングサロン実習	○	600	○	120	○
動物看護臨床実習			○	120	○
ドッグトレーニング実習			○	120	○
学生指導実習			○	240	○
必須受講時間		600		600	
合 計		1050		1050	

4年次	コース				担当教員 実務経験 有無
	グルーマー		教員		
		時間		時間	
動物飼育実習Ⅳ	○	60	○	60	○
グルーミング学Ⅳ	○	120	○	120	○
グルーミング実習Ⅳ	○	255	○	255	○
ボランティア学	○	15	○	15	○
必須受講時間		450		450	
トリミングサロン実習	○	600	○	120	○
動物看護臨床実習			○	120	○
ドッグトレーニング実習			○	120	○
学生指導実習			○	240	○
必須受講時間		600		600	
合 計		1050		1050	

※ ○必須 △選択必須

【実務経験のある教員による授業時数】

4年間合計 4500 時間

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 飼育管理学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第4巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 伴侶動物、展示動物について適正飼育法および主な疾病について理解し、看護と飼い主指導に活かす。
到達目標: 犬猫と比較し、その生態と生理、習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習Ⅰ、Ⅱ」にて行うことができるようになる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	エキゾチックアニマルとは(ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、鳥類の生態や飼育について)
項目2	第16回～第30回	野生動物と展示動物について (動物園と野生動物の関わりについて、動物園での飼育について、エンリッチメント)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 通年	科目名 経営学・ビジネススキル	教員氏名 豊實祐之(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 15 時間/年	単位数 単位

講義概要: 社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する
到達目標: 1人1人が自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	自己分析、自己紹介
項目2	第3回～第4回	他者理解、他己紹介
項目3	第5回～第7回	履歴書の書き方
項目4	第8回～第9回	電話のかけ方
項目5	第10回～第12回	企業研究
項目6	第13回～第15回	面接対策
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は一般企業において総合職の経験を有す。



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 2,3,4年	科目名 ボランティア学	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
	授業時間数 15 時間/年 3年次のみ30時間	単位数 単位
教科書名		

講義概要: 動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。 また、周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する
到達目標: 主体的に考え、慈善事業に対して利他の精神で活動出来るようになる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	主体性とは(主体性と自主性の違い、ボランティアの意義について)
項目2	第4回～第8回	地域清掃ボランティア(普段通学する道を清掃する)
項目3	第9回～第10回	愛護センターイベントボランティア(愛護センターで開かれるイベントのお手伝いを行う)
項目4	第11回～第15回	グループワーク(自分たちに出来る活動を考え、実践する)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所において動物保護活動やセラピー犬活動に従事した経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 2年	科目名 動物飼育実習 I	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 実際に動物を世話することで観察力と動物福祉の精神を養う。また、衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力を身に付ける。
到達目標: 個体別の生活様式から正常と異常を見極め、各動物の飼育の仕方などを説明出来るようになる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	飼育動物について(本校にいる飼育動物について理解する)
項目2	第3回～第4回	犬の飼育
項目3	第5回～第6回	猫の飼育
項目4	第7回～第8回	ウサギの飼育
項目5	第9回～第10回	ハムスターの飼育
項目6	第11回～第12回	モルモットの飼育
項目7	第13回～第14回	フェレットの飼育
項目8	第15回～第16回	ハリネズミの飼育
項目9	第17回～第18回	チンチラの飼育
項目10	第19回～第20回	小鳥の飼育
項目11	第21回～第30回	トレーニング
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 2年	科目名 動物飼育実習Ⅱ	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 45 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物飼育実習Ⅰに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。
到達目標: 適正飼育法および観察力と動物福祉の精神を身に付け、正常と異常を鑑別しながら小動物の飼育が行える。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物福祉を意識した飼育
項目2	第11回～第20回	チームを意識した飼育
項目3	第21回～第30回	コミュニケーション力を活かした飼育
項目4	第31回～第45回	観察力を高める飼育
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 3年	科目名 動物飼育実習Ⅲ	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 60 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物飼育実習Ⅱに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。 また、動物飼育を行う上で自分の考えを再現出来る。
到達目標: 適正飼育法および観察力と動物福祉の精神を身に付け、正常と異常を鑑別しながら小動物の飼育が行える。 飼育動物種の特性を理解し、様々な展示方法を考えられる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	環境エンリッチメントについて
項目2	第6回～第30回	環境エンリッチメントの作成
項目3	第31回～第50回	環境エンリッチメントの導入
項目4	第51回～第60回	環境エンリッチメントの評価
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 4年	科目名 動物飼育実習Ⅳ	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 60 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物飼育実習Ⅲに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。 後輩に対してこれまでに学んだ知識や経験を伝える。
到達目標: これまでに学んできた内容を後輩に伝えることが出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	飼育動物についての説明
項目2	第16回～第30回	各動物種についての説明
項目3	第31回～第45回	飼育する上で意識することの説明
項目4	第46回～第60回	環境エンリッチメントについての説明
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 教員育成コース 3, 4年	科目名 学生指導実習	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 240 時間/年 :全480回	単位数 単位

講義概要: これまでに学んだ内容を自分の言葉で表現し、後輩達に教えていく。
到達目標: 感覚で理解しているものを言葉で表現出来るようになる。

## 授 業 計 画

項目1	全480回	授業計画の立て方
項目2		授業準備の行い方
項目3		授業の実践
項目4		授業の評価
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は中学・高校教員免許を有しており、研究指導員として従事した経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 3, 4年	科目名 トリミングサロン実習	教員氏名 大栗里美(実務経験有り)
教科書名	授業時間数 グルーマー育成コース600時間/年 : 全1200回 教員育成コース120時間/年 : 全240回	単位数 単位

講義概要: 実際のトリミングサロンで研修を行い、トリマーとして必要な接客スキルやトリミングスキルを身に付ける
到達目標: お客様の希望のオーダーを時間内に仕上げられるようになる。 グルーマー育成コースはトリミングコンテストに出場し、入賞を目指す。

## 授 業 計 画

項目1	実地研修
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等) 学校外での実地研修が望ましいが、受け入れが難しい場合、本校で実習とは別に実施する。	特記事項 担当教員はトリマーとして勤務した経験を有す。 また国内外のコンテストへの出場歴、入賞歴をもつ。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 教員育成コース 3, 4年	科目名 動物看護臨床実習	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 120 時間/年 全240回	単位数 単位

講義概要: 動物病院や救急医療センターで研修を行い、動物看護師に必要な接客スキルと動物看護スキルを身に付ける。
到達目標: 獣医師の望む作業を迅速に行うことができる。 臨床獣医学フォーラムへ参加し内容を理解出来るようになる。

## 授 業 計 画

項目1	実地研修
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院の動物看護師として従事した経験を有す。 また毎年開催される臨床獣医学フォーラムへの参加経験をもつ。



学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 教員育成コース 3, 4年	科目名 ドッグトレーニング実習	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 120 時間/年 全240回	単位数 単位

講義概要: 警察犬訓練所や犬の幼稚園で研修を行い、トレーナーに必要な接客スキルとトレーニングスキルを身に付ける。
到達目標: お客様のオーダーを上げることが出来る。 訓練競技会において入賞を目指す。

## 授 業 計 画

項目1	実地研修
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。 また訓練競技会への出場歴・入賞歴をもつ。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物形態機能学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数 120 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
到達目標: 正常な動物の様々な部分の形態を知り、機能や薬物の作用などの基礎を身に付け、異常との違いに気付くことができる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第8回	生命の基本構造 (細胞、組織、遺伝子、生体を構成する要素、体液、電解質、血漿タンパク質、細胞成分、血液成分、など)
項目2	第9回～第16回	骨格 (各骨格の位置、椎骨式、生体の位置と方向を表す用語、名称、基本構造、機能、骨膜、骨髄、関節、靭帯、関節包、半月板、捻挫、脱臼、血中Ca濃度、リンの機能、骨の成長、など)
項目3	第17回～第24回	筋肉(分類と役割)
項目4	第25回～第32回	皮膚 (構造、生理学、グルーミングの重要性、犬猫が皮膚病になりやすい理由、アレルギー性皮膚炎、皮膚真菌症、など)
項目5	第33回～第40回	血液系 (血液の成分、リンパ管系、リンパ節、胸管、胸腺、浮腫、造血、など)
項目6-1	第41回～第44回	循環器① (役割、体循環、肺循環、動脈と静脈、血圧と血流、血圧の変動、心臓・肺の構造と機能、心臓の働く仕組み、心電図、心音と血流の関係、主要な動脈・静脈系、など)
項目6-2	第45回～第48回	循環器② (僧帽弁閉鎖不全、フィラリア症、胎仔循環、心室中隔欠損症、動脈管閉存症、門脈循環、肝門脈系、など)
項目7	第49回～第56回	呼吸器 (役割、鼻腔、喉頭、喉頭蓋、発声器、咽頭、気管、気管支、肺、脳構造、生理学、換気のしくみ、代表的疾患/呼吸困難、一般的な臨床症状、鼻汁、咳、軟口蓋過長、肺炎、気管虚脱/、など)
項目8	第57回～第64回	消化器 (構造、役割・働き、咀嚼、唾液腺、嚥下、誤嚥、各消化腺・分泌液/胆汁、腸液/、肝臓の働き、下痢と嘔吐、消化器系疾患でみられる症状、胃腸内異物、巨大食道症、肛門囊炎、など)
項目9	第65回～第72回	内分泌 (内分泌系の器官とホルモン、ホルモンの作用、特徴、疾患、など)
項目10	第73回～第80回	泌尿器 (泌尿器系の構造、役割、作用、特徴、腎不全他泌尿器系疾患、など)
項目11	第81回～第88回	神経 (構造、役割、神経細胞の興奮、神経系の分類、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系の二重支配、神経系の看護のポイント、問診とバイタルサイン、主な症状、検査、飼い主への指導、など)
項目12	第89回～第96回	生殖器 (構造、役割、雌雄の生殖器・副生殖器、精子、卵子、生殖器系ホルモン、避妊・去勢のメリットデメリット、性周期、など) ※交配、妊娠、人工授精、妊娠動物のかんり、分娩、出産、帝王切開、新生仔管理、哺乳、等は繁殖学で行う。
項目13	第97回～第104回	感覚器 (視覚/眼球の構造、役割、眼神経、通光装置、複眼器の構造と役割、視覚の仕組み、眼疾患の一般症状/、聴覚/耳の構造、役割、平衡感覚とその仕組み、耳疾患の原因、耳垢の種類と感染症、など/、嗅覚/鼻の構造、役割、関わる神経、など/、味覚/舌の構造、役割、分泌腺、味蕾の分布、など)
項目14	第105回～第112回	ショック (原因、分類、アナフィラキシーショック、外毒素、内毒素、応急処置、など)
項目15	第113回～第120回	炎症(定義、主徴、など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、研究の経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物繁殖学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する
到達目標: 犬猫の生殖器の構造と発生を理解し、説明出来る。繁殖に伴う遺伝的要因を挙げることが出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	雄性生殖器 (オスの生殖器の構造、精子)
項目2	第3回～第4回	雌性生殖器 (メスの生殖器の構造、卵子)
項目3	第5回～第6回	ホルモン (性腺刺激ホルモン放出ホルモン、性腺刺激ホルモン(卵胞刺激ホルモン、卵胞ホルモン)、性ステロイドホルモン(アンドロゲン、エストロゲン、プロゲステロン)、その他のホルモン(オキシトシン、プロラクチン、人絨毛性性腺刺激ホルモン、妖馬血清性性腺刺激ホルモン、インヒピン、リラキシン、プロスタグランジン)) 1)性腺機能の調節に関与するホルモンの働き(卵胞刺激ホルモン(間質細胞刺激ホルモン、黄体形成ホルモン)) 2)精子の形成 3)性腺刺激ホルモンによる卵巣機能の調節(メス)
項目4	第7回～第8回	性周期 (発情周期、発情周期とホルモン、それぞれの動物の発情周期、犬の発情周期、猫の発情周期、性周期に影響を及ぼすホルモン以外の要因)
項目5	第9回～第10回	交配 (性成熟、生殖周期、卵巣周期、卵胞期、排卵、黄体期、誘起排卵動物、交配適期、交配適期を知るポイント)
項目6	第11回～第12回	妊娠 (受精から分娩まで、受精とは、精子の受精能獲得、卵子の成熟、受精、胚の発育、胎盤の形成、哺乳動物の胎盤の分類、内分泌器官としての胎盤の役割、妊娠の維持、妊娠診断)
項目7	第13回～第14回	分娩 (分娩発来の兆候、子宮の変化、分娩発来の機構、母体側のホルモンの変化、分娩の経過、産褥、泌乳、新生子の生理、難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目8	第15回～第16回	新生仔管理 (出産直後、気道確保、授乳、身体検査、体重の変化、反応、温度、狼爪切除・断尾、先天性疾患、新生仔の人工保育)
項目9	第17回～第18回	遺伝子概論 (メンデルの一遺伝子雑種、不完全雄性、致死遺伝子、複対立遺伝子、二遺伝子雑種、性に関する遺伝、DNAとタンパク合成)
項目10	第19回～第20回	繁殖障害 (難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目11	第21回～第22回	疾患(メス) (メスの生殖器疾患(子宮蓄膿症とその看護、子宮粘液症、卵巣腫瘍、子宮の腫瘍))
項目12	第23回～第24回	疾患(オス) (オスの生殖器疾患(前立腺肥大とその看護、前立腺のう胞、前立腺腫瘍、停留精巣、精巣腫瘍))
項目13	第25回～第30回	猫 (ネコの繁殖生理、基本用語、生成熟、生殖に関わるホルモン、発情(特徴、発情周期、兆候)、犬と猫の生殖器の比較、雄・雌の生殖器、受精・着床、胎盤と胎膜、妊娠日数と母体、胎仔の変化、妊娠・妊娠診断法、分娩)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の繁殖や繁殖生理の研究経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物病理学	教員氏名 木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要: 様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
到達目標: 細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解し、簡単に図示説明出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物病理学の基礎 (病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義/病理組織標本の作製法/病理組織学的検査の実施手順)
項目2	第6回～第10回	細胞や組織に生じる変化 (変性と物質沈着/壊死とアポトーシス/細胞増殖のメカニズム、再生と化生/低形成と萎縮/過形成と肥大)
項目3	第11回～第15回	循環障害 (充血とうっ血/出血の原因、病態の理解/血栓の成因/虚血と梗塞/浮腫、水腫/ショックの原因と分類、病態/播種性血管内凝固(DIC)の病態)
項目4	第16回～第20回	炎症 (炎症の定義と5大主徴/炎症の分類と原因、特徴/炎症に関与する細胞と化学伝達物質について/炎症の経過と治癒)
項目5	第21回～第25回	腫瘍 (腫瘍の定義と分類/腫瘍の原因と発生機序/腫瘍と宿主の関係/腫瘍の転移と進行)
項目6	第26回～第30回	先天異常 (遺伝子・染色体異常/発生異常と奇形)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物薬理学	教員氏名 木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数 60時間/年	単位数 単位

講義概要: 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、 動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
到達目標: 薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し実際の医療現場での行動に活かすことができるようになる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物薬理学の基礎 (獣医臨床における薬物治療の概念、目的を理解する / 薬理作用とその発現機構、薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性 / 薬物間相互作用、副作用と中毒について)
項目2	第7回～第12回	動物看護師による薬物の取り扱い (投薬量が計算、薬物の適切な管理方法 / 各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導)
項目3	第13回～第18回	神経系に作用する薬物 (全身麻酔薬、局所麻酔薬、鎮痛薬 / 運動神経系に作用する薬、鎮静薬、抗けいれん薬 / 問題行動の治療に用いられる薬)
項目4	第19回～第24回	呼吸器系に作用する薬物 (呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬)
項目5	第25回～第30回	循環器・泌尿器に作用する薬物 (血管拡張薬(降圧薬)、心不全治療薬(強心薬)、抗不整脈薬、利尿薬)
項目6	第31回～第36回	消化器に作用する薬物 (制吐薬、制酸薬、胃粘膜保護薬 / 消化管運動促進薬、止瀉薬、瀉下薬)
項目7	第37回～第42回	消化管運動促進薬 (肝疾患の治療に用いられる薬物、膵酵素製剤)
項目8	第43回～第48回	オータコイド、代謝・内分泌系 (代表的なオータコイド、糖尿病治療薬 / 甲状腺ホルモン製剤、ステロイドホルモン製剤)
項目9	第49回～第54回	血液・免疫系に作用する薬物 (抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬(止血薬) / 非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)、免疫抑制薬)
項目10	第55回～第60回	化学療法薬 (抗菌薬(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)、抗真菌薬、抗がん剤 / 駆虫薬、殺虫薬)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物感染症学	教員氏名 木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数 90 時間/年	単位数 単位

講義概要: 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、 予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。
到達目標: 寄生現象、宿主との関連性を理解し予防獣医学に貢献出来る。 主に犬猫に感染する微生物について分類と予防法を理解し飼い主様に説明出来るようになる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	定義(感染症とは、微生物とは、寄生虫とは)
項目2	第7回～第12回	微生物(細菌、真菌、ウイルス等の分類、特性、伝播様式等)
項目3	第13回～第18回	内部寄生虫(線虫類、条虫類、吸虫類、原虫類)
項目4	第19回～第24回	外部寄生虫(マダニ類、マダニ類以外のダニ類、昆虫類)
項目5	第25回～第30回	線虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (回虫類、鉤虫、鞭虫、糞線虫、東洋眼虫、猫毛細線虫、猫胃虫、犬糸状虫)
項目6	第31回～第36回	条虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (瓜実条虫、マンソン裂頭条虫、猫条虫、日本海(広節)裂頭条虫)
項目7	第37回～第42回	吸虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (壺形吸虫、横川吸虫、肝吸虫、肺吸虫、宮崎肺吸虫、ウエステルマン肺吸虫、日本住血吸虫)
項目8	第43回～第48回	原虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (コクシジウム、クリプトスポリジウム、ジアルジア、トリコモナス(腸トリコモナス)、トキソプラズマ、バベシア、ヘモバルトネラ)
項目9	第49回～第54回	節足動物の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (フタトゲチマダニ、ショウコウヒゼンダニ、ツリガネチマダニ、キチマダニ、ヤマトマダニ、ツルツエマダニ)
項目10	第55回～第60回	マダニ類以外のダニ類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (ヒゼンダニ類、ミミヒゼンダニ、ニキビダニ(アカラス)、イヌツメダニ)
項目11	第61回～第66回	昆虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (イヌシラミ、ネコジラミ、イヌハジラミ、ネコハジラミ、イヌノミ、ネコノミ)
項目12	第67回～第72回	免疫 (免疫とは、免疫応答、自然免疫、獲得免疫、抗体、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全)
項目13	第73回～第78回	ワクチン(機序、効果、プログラム、ブースター効果、狂犬病ワクチン、混合ワクチン)
項目14	第79回～第84回	消毒と滅菌(滅菌法(火炎、乾熱、高圧蒸気、濾過、ガス)、消毒法(煮沸、蒸気、各種消毒薬とその作用機序))
項目15	第85回～第90回	衛生管理(生物学的ハザード、化学的ハザード、物理的ハザード、整理・整頓・清掃・清潔)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物医療関連法規	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。
到達目標: 法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身に付ける。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	獣医師法
項目2	第5回～第7回	獣医療法
項目3	第8回～第11回	動物の愛護及び管理に関する法律
項目4	第12回～第14回	ペットフード安全法
項目5	第15回～第17回	身体障害者補助犬法
項目6	第18回～第21回	狂犬病予防法
項目7	第22回～第24回	感染症法
項目8	第25回～第27回	家畜伝染病予防法
項目9	第28回～第30回	鳥獣保護管理法
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 公衆衛生学	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数 60 時間/年	単位数 単位

講義概要: 環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。
到達目標: 公衆衛生について基本的な理念を理解し、公衆衛生の基本を考え行動出来る。 国内外問わず、動物の輸送時や受け入れの際の公衆衛生に関わる注意点を説明出来る。 滅菌と消毒の違いとそれぞれの方法を説明出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	公衆衛生とは (公衆衛生学とは、動物看護における重要性、動物看護と公衆衛生、公衆衛生学における動物看護の領域、関連した活動分野)
項目2	第5回～第7回	環境衛生(動物の健康管理の徹底、衛生観念、飼育方法指導、動物としての接し方)
項目3	第8回～第10回	食品衛生(食品の安全性、食品残留剤・ホルモン剤、畜産品検査、遺伝子組み換え食品、等)
項目4	第11回～第13回	食中毒(サルモネラ、腸管出血性大腸菌感染症、カンピロバクター腸炎の原因、感染経路、症状、予防)
項目5	第14回～第16回	疫学(分布、発生原因、流行、予防)
項目6	第17回～第20回	感染症とは (微生物、人畜共通感染症、感染の形態(顕性感染、不顕性感染、潜伏期間、キャリアー、日和見感染)、感染経路(経口感染、経皮感染、経胎盤・経乳汁))
項目7	第21回～第23回	薬剤耐性菌 (MRSA/メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、PRSP/ペニシリン耐性肺炎球菌、VRE/バンコマイシン耐性腸球菌、MDRP/多剤耐性緑膿菌、等)
項目8	第24回～第26回	衛生行政と主な関連法規 (感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、指定動物と指定感染症に関する法定検査、検査法、狂犬病予防法)
項目9	第27回～第30回	人獣共通感染症 (現状、新興・再興感染症の発生原因、伝播様式、予防対策、動物由来の主なズーノーシス(犬猫類、サル類、げっ歯類)、定義、ズーノーシスを学ぶ意義)
項目10	第31回～第33回	院内感染とペットショップ内感染 (院内感染の予防対策、飼い主への日常的な指導(ワクチン接種、抗体検査、来院の際の事前連絡、家庭における管理、ズーノーシス)、待合室・診察室・入院室、ペットショップ感染の予防対策)
項目11	第34回～第37回	咬まれたり引っかかれたりして感染するズーノーシス(狂犬病、ネコ引っかき病、破傷風)の原因、感染経路、症状、予防
項目12	第38回～第41回	日常生活に関係の深いズーノーシス(トキソプラズマ症、皮膚糸状菌症、幼虫移行症、ヒト・イヌ糸状虫症、インフルエンザ、ノミ刺症、アニサキス症)の原因、感染経路、症状、予防
項目13	第42回～第45回	その他の代表的なズーノーシス (レプトスピラ症、オウム病、マダニ媒介疾患、エキノコッカス、ブルセラ症)
項目14	第46回～第49回	サルから感染するズーノーシス (細菌性赤痢、アメーバ赤痢、エボラ出血熱の原因、感染経路、症状、予防)
項目15	第50回～第53回	ウサギから感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫による皮膚炎、外傷性パストレルラ、トキソプラズマ、細菌性皮膚炎、野兔病、サルモネラ、仮性結核の特徴、予防)
項目16	第54回～第57回	小型げっ歯類から感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫感染症、サルモネラ症、大腸菌症、カンピロバクター症、レプトスピラ症、小形糸状虫症、その他の特徴、予防、飼育管理)
項目17	第58回～第60回	感染症新法における4類感染症 (クリプトスポリジウム症、ヘリコバクターピロリ感染症、ウシ海綿状脳症の原因、感染経路、症状、予防)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所において衛生管理に従事した経験を有す



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物人間関係学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史を学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。
到達目標: HABによる人間と動物にもたらす影響とその目的を説明出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	人間と動物の関わり (動物の飼育・利用の歴史、文学・芸術における動物の表現、欧米と日本の違い、動物の飼育と利用の現状)
項目2	第4回～第7回	動物介在活動(目的、内容、人間に与える身体的・心理的影響)
項目3	第8回～第11回	動物介在療法(目的、内容、人間に与える身体的・心理的影響)
項目4	第12回～第15回	動物介在教育(目的、内容、人間に与える身体的・心理的影響)
項目5	第16回～第19回	使役動物(定義、使役動物の歴史、使役動物の福祉)
項目6	第20回～第23回	補助犬 (盲導犬・聴導犬・介助犬の定義、補助犬の歴史、補助犬の現状、育成過程、適正、施設・社会の受け入れ体制)
項目7	第24回～第27回	補助犬以外の使役犬(種類、特徴、現状)
項目8	第28回～第30回	伴侶動物 (現状、人間が受ける恩恵と問題点、適正飼育の推進、ペット産業)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において動物介在活動の経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物福祉・倫理	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。
到達目標: 動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。 動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	生命倫理の概念 (考え方について、獣医療との関わりについて)
項目2	第5回～第9回	動物福祉の概念(福祉の意味、ヒトの福祉、動物の福祉、5つの自由)
項目3	第10回～第14回	動物福祉の歴史(西欧と日本におけるヒトと動物の関わり方、日本における動物に関連する法律や規則)
項目4	第15回～第18回	伴侶動物の福祉(適正飼育と福祉上の問題、保護活動の現状と課題、動物虐待の定義、災害時の対応)
項目5	第19回～第22回	産業動物の福祉(福祉上の問題、国際的な福祉基準、福祉の向上)
項目6	第23回～第26回	実験動物の福祉(福祉上の問題、3Rの概念)
項目7	第27回～第30回	展示動物の福祉(福祉上の問題、環境エンリッチメント)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は実験施設、動物園、豚舎において動物福祉を意識した飼育の経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 動物行動学	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第4巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
到達目標: 犬猫において基本的な行動の意義または機序を説明出来る 犬猫に起こる主な問題行動を理解し、その行動に対しての対応が出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物行動学の基礎(4つの問い、生得的行動と学習行動、脳による行動制御)
項目2	第6回～第10回	個体維持行動(摂食・飲水・排泄・身繕い・護身行動)
項目3	第11回～第15回	発達過程と社会行動 (発達ステージと各時期の行動学的特徴、生殖行動、コミュニケーション行動、敵対行動と神話的行動)
項目4	第16回～第20回	学習理論(行動形成、馴化と感作、古典的条件付けとオペラント条件付け、学習に影響を与える因子)
項目5	第21回～第25回	問題行動(定義と要因、攻撃行動の種類と原因と治療法、恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法、不適切な排泄行動の原因と治療法、老齢性認知機能低下の原因と症状と対応)
項目6	第26回～第30回	行動治療と予防(行動診療の進め方、コンサルテーションの方法、行動修正法と環境修正法の種類と適応、薬物療法、問題行動予防、社会化教室)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 伴侶動物学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第4巻	授業時間数 60 時間/年	単位数 単位

講義概要: 伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、エキゾチック動物の生態について理解する。
到達目標: エキゾチック動物と犬猫を比較し、その生理、生態、習性の違いを説明出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第20回	犬について(歴史と代表的な品種、活用、飼育管理)
項目2	第21回～第40回	猫について(歴史と代表的な品種、活用、飼育管理)
項目3	第41回～第60回	代表的なエキゾチック動物について(種類と特徴、生態、飼育管理)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において飼育員の経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 産業動物学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第4巻	授業時間数 45 時間/年	単位数 単位

講義概要: 産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。
到達目標: 産業動物の管理について入手、飼育法および食品生産の仕組みを理解し自分の意見が述べられる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第11回	馬、牛、豚(歴史と品種、特徴)
項目2	第12回～第22回	綿羊、山羊、鶏(歴史と品種、特徴)
項目3	第23回～第33回	主要家畜の飼養管理法(消化器の形態と機能、性周期と繁殖生理、飼育施設の概要、飼養法)
項目4	第34回～第45回	日本の畜産業の実際(酪農業・牛肥育業・養豚業・養鶏業の概要、主な畜産物)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は豚舎での飼育経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 実験動物学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第4巻	授業時間数 15 時間/年	単位数 単位

講義概要: 実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ
到達目標: 実験動物の社会的役割と管理について理解し自分の意見が述べられる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	実験動物学の基礎(目的、意義、動物種、品種、系統)
項目2	第4回～第6回	代表的な実験動物の飼育管理、繁殖法(マウス、ラット、ウサギ、モルモット、ハムスターなど)
項目3	第7回～第9回	遺伝学的制御について(近交系、クローズドコロニー、交雑群など)
項目4	第10回～第11回	微生物学的制御について(無菌動物、ノトバイオート、SPFなど)
項目5	第12回～第13回	環境制御について
項目6	第14回～第15回	疾患モデル動物について
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は研究施設での飼育経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 野生動物学	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第4巻	授業時間数 30 時間/年	単位数 単位

講義概要: 日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。
到達目標: 野生動物における生態系と環境保全および外来生物について理解し自分の意見が述べられる 展示動物の管理について入手、飼育法を理解し自分の意見が述べられる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	野生動物学の基礎(生物多様性、保全の意義、鳥獣害の現状、飼育下繁殖および動物園などの役割)
項目2	第7回～第12回	分類と生物多様性(分類方法、日本在来動物の生態および生息環境、種・遺伝子・生態系の多様性、生物多様性条約)
項目3	第13回～第18回	絶滅危惧種の保全(定義、レッドリスト、絶滅危惧種となる原因、保全方法)
項目4	第19回～第24回	動物園(展示動物の意義と役割、個体群管理、行動管理、施設管理)
項目5	第25回～第30回	外来生物(定義、種類、在来生態系に及ぼす影響、対策)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園での野生動物調査の経験を有す

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 動物看護学概論	教員氏名 大串正文(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第5巻	授業時間数 60 時間/年	単位数 単位

講義概要: 獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する
到達目標: 動物看護倫理、実務指針を理解し説明出来る。 獣医療専門用語、POMRの構成、看護過程、問題思考過程を説明出来る。 QOLを基本に患者動物と飼い主様に寄り添った看護を考えることが出来る。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第8回	獣医療の歴史
項目2	第9回～第16回	動物看護の歴史
項目3	第17回～第23回	資格制度
項目4	第24回～第30回	職域
項目5	第31回～第37回	職務範囲
項目6	第38回～第45回	動物看護書の倫理要領
項目7	第46回～第53回	獣医療倫理
項目8	第54回～第60回	インフォームドコンセント
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として動物病院での経験を有す。



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 内科動物看護学	教員氏名 木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要: 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、 身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。
到達目標: 内科診療において、犬猫の違いを理解し、内科看護学実習で実践出来るようになる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	保定
項目2	第9回～第11回	身体検査
項目3	第12回～第14回	バイタルチェック
項目4	第15回～第17回	採血法
項目5	第18回～第20回	採尿法
項目6	第21回～第23回	投薬法
項目7	第24回～第26回	輸液
項目8	第27回～第30回	輸血
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 外科動物看護学	教員氏名 林繁利(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 60時間/年	単位数 単位

講義概要: 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
到達目標: 手術関連業務、外科手術に必要な術前準備から術中・術後管理までの流れを系統的に理解し、外科看護実習で実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物の術前管理
項目2	第7回～第12回	手術室管理
項目3	第13回～第18回	滅菌消毒法
項目4	第19回～第24回	術前準備
項目5	第25回～第30回	麻酔法
項目6	第31回～第35回	手術器具
項目7	第36回～第40回	術中管理
項目8	第41回～第45回	術後管理
項目9	第46回～第50回	包帯法
項目10	第51回～第55回	救急救命法
項目11	第56回～第60回	理学療法
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として現在も動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 臨床動物看護学 総論	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。
到達目標: 個体観察や飼い主情報など様々な観点からの情報収集の必要性を理解出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	事例
項目2	第6回～第10回	チーム獣医療 チーム獣医療における動物看護師の役割を理解する/ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する/事故管理、防止システムについて理解する
項目3	第11回～第15回	動物看護過程 動物看護過程の目的や意義、方法を理解する/動物看護過程の各ステップについて理解する/アセスメントについて理解する/事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する / 問題の明確化、動物看護計画の立案について理解する / 動物看護過程の実施、評価について理解する
項目4	第16回～第20回	動物看護記録 / 診療録(カルテ)の作成方法について理解する/動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する/ 診療記録
項目5	第21回～第25回	QOL 若齢動物看護の特徴について理解する/高齢動物看護の特徴、認知障害や褥瘡について理解する/家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する/QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する
項目6	第26回～第30回	ターミナルケア ターミナルケアに関わる技術/ターミナルケアの目的と意義について理解する/死亡した動物への対応、エンゼルケアについて理解する
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 動物臨床栄養学	教員氏名 森美智子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 60時間/年	単位数 単位

講義概要: 5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。

到達目標:

基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違いを理解し、適切な食事管理が出来る  
疾患別の療法食の栄養特性を説明出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	5大栄養素
項目2	第6回～第10回	食性
項目3	第11回～第15回	ライフステージ
項目4	第16回～第20回	給餌計算
項目5	第21回～第25回	肥満
項目6	第26回～第30回	削瘦
項目7	第31回～第35回	ボディコンディションスコア
項目8	第36回～第40回	総合栄養食
項目9	第41回～第45回	療法食
項目10	第46回～第50回	強制給餌法
項目11	第51回～第55回	経管栄養法
項目12	第56回～第60回	静脈栄養法
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物看護の資格を有すトリマーとして動物のライフステージに沿って最適な食餌を提案する経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 動物臨床検査学	教員氏名 三谷佐和子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 60時間/年	単位数 単位

講義概要: 様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。
到達目標: 検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことができる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	血液検査
項目2	第5回～第8回	尿検査
項目3	第9回～第12回	糞便検査
項目4	第13回～第16回	細胞診
項目5	第17回～第20回	病理組織検査
項目6	第21回～第24回	遺伝子検査
項目7	第25回～第28回	心電図
項目8	第29回～第32回	X線検査
項目9	第33回～第36回	放射線防護
項目10	第37回～第40回	CT/MRI
項目11	第41回～第44回	超音波検査
項目12	第45回～第48回	内視鏡
項目13	第49回～第52回	神経学的検査
項目14	第53回～第56回	皮膚検査
項目15	第57回～第60回	眼科検査
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として現在も動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 動物医療コミュニケーション	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 60時間/年	単位数 単位

講義概要: 日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。
到達目標: 動物診療現場における受付で発生する飼い主対応、接遇をすることが出来る 動物診療現場におけるクライアントやスタッフとの状況に応じたコミュニケーションを取ることが出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	クライアントエデュケーション
項目2	第16回～第30回	院内コミュニケーション
項目3	第31回～第45回	病院マネージメント
項目4	第46回～第60回	グリーンケア
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 動物形態機能学実習	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数 90 時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。
到達目標: 犬猫の体の構造を理解した上で、動きや生理機能を実際に触ることでより理解する 検査学実習を行う上で顕微鏡の取り扱いを素早く行えるようになる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第30回	運動器(代表的な骨の名称・特徴、骨格標本による観察、代表的な関節の名称・構造・機能、代表的な骨格筋の名称・構造・機能)
項目2	第31回～第60回	内臓器官(配置、生殖器の雌雄差)
項目3	第61回	顕微鏡の取り扱い(各部位の名称、鏡検条件、適切な操作法、適切な管理法)
項目4	第62回～第90回	組織像の観察(主要臓器の観察・スケッチ、組織像から読み取る構造と機能との関係)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、研究の経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 2年	科目名 臨床動物看護学 各論	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 120時間/年	単位数 単位

講義概要: 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。
到達目標: 書く疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、個体情報の分析からその症例にあった動物看護が出来るようになる 主な疾患の回復に必要な事項を説明出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第8回	循環器疾患
項目2	第9回～第16回	呼吸器疾患
項目3	第17回～第24回	栄養代謝性疾患
項目4	第25回～第32回	消化器疾患
項目5	第33回～第40回	泌尿器疾患
項目6	第41回～第48回	内分泌疾患
項目7	第49回～第56回	生殖器疾患
項目8	第57回～第64回	整形外科疾患
項目9	第65回～第71回	皮膚疾患
項目10	第72回～第78回	神経疾患
項目11	第79回～第85回	眼疾患
項目12	第86回～第92回	造血器疾患
項目13	第93回～第99回	腫瘍
項目14	第100回～第106回	免疫介在性疾患
項目15	第107回～第113回	感染症
項目16	第114回～第120回	救急疾患
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、疾患研究の経験を有す。



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター-学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 動物内科看護学実習 I	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 犬や猫の日常的な健康管理に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 基本的なお手入れを安全且つ素早く実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	全90回	グルーミング
項目2		口腔内衛生管理
項目3		爪切り
項目4		肛門囊絞り
項目5		耳掃除
項目6		基本的トレーニング法
項目7		飼育環境整備
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 内科動物看護学実習Ⅱ	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 犬や猫の内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 内科診療の主義を診療の妨げとならないように実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第9回	POMR
項目2	第10回～第18回	SOAP
項目3	第19回～第26回	保定
項目4	第27回～第34回	身体検査
項目5	第35回～第42回	バイタルチェック
項目6	第43回～第50回	採血
項目7	第51回～第58回	採尿
項目8	第59回～第66回	注射
項目9	第67回～第74回	留置針設置
項目10	第75回～第82回	輸液
項目11	第83回～第90回	輸血
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 2年	科目名 動物臨床検査学実習 I	教員氏名 三谷佐和子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことができる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第18回	血液検査(血球検査、生化学検査)
項目2	第19回～第36回	尿検査
項目3	第37回～第54回	糞便検査
項目4	第55回～第72回	細胞診
項目5	第73回～第90回	心電図
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として現在も動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 2年	科目名 動物臨床検査学実習Ⅱ	教員氏名 三谷佐和子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことができる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第18回	X線検査
項目2	第19回～第36回	超音波検査
項目3	第37回～第54回	神経学的検査
項目4	第55回～第72回	皮膚検査
項目5	第73回～第90回	眼科検査
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として現在も動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 2年	科目名 外科動物看護学実習 I	教員氏名 林繁利(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 手術準備や術中・術後管理など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 動物外科看護学で学んだ内容を実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第18回	手術準備(動物・手術器具)
項目2	第19回～第36回	術中管理
項目3	第37回～第54回	術後管理
項目4	第55回～第72回	抜糸
項目5	第73回～第90回	包帯法
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として現在も動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 2年	科目名 外科動物看護学実習Ⅱ	教員氏名 林繁利(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 動物外科看護学で学んだ内容を実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	麻酔準備
項目2	第16回～第30回	麻酔監視
項目3	第31回～第45回	手術助手
項目4	第46回～第60回	創傷管理
項目5	第61回～第75回	歯科処置
項目6	第76回～第90回	救急救命
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 獣医師として現在も動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 1年	科目名 臨床動物看護学実習	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト6巻	授業時間数 90時間/年	単位数 単位

講義概要: 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標: 臨床現場において必要な看護過程を理解し、実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	動物看護過程
項目2	第16回～第30回	動物看護記録
項目3	第31回～第45回	入院動物看護
項目4	第46回～第60回	褥瘡管理
項目5	第61回～第75回	栄養管理
項目6	第76回～第90回	痛みの評価
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・動物看護・教員育成コース 2年	科目名 動物看護総合実習	教員氏名 実地担当者
教科書名	授業時間数 180時間/年 全180回	単位数 単位

講義概要: 動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。 また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実地研修を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。
到達目標: 身に付けた知識や技術を発揮し、実習先からより実践的な経験や知識・技術、社会人としての一般常識を身に付ける

## 授 業 計 画

項目1	実地研修(90時間以上を動物病院での実習とするのが望ましい)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 グルーミング学I	教員氏名 森美智子(実務経験あり)
	授業時間数 15時間/年	単位数 単位
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニ		

講義概要:
①グルーミングとは何か、グルーマーとしてのグルーマーの基本、基礎、身に着けておくべき知識を学ぶ。
②道具の正しい使い方、正しいお手入れの方法を学ぶ
③犬の体の基礎を学び、皮膚や被毛に対するお手入れの方法を学ぶ
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回	グルーミングとは何か(歴史と役割)
項目2	第2回	グルーミング用語について
項目3	第3回	トリミングの環境(安全性と公衆衛生)
項目4	第4回	トリマーの見出しなみ、健康管理について
項目5	第5回	グルーミングツールについて(種類)
項目6	第6回	グルーミングツールの正しい使い方とお手入れ方法について
項目7	第7回	犬の体の基礎について(骨格名称、犬体名称)
項目8	第8回	犬の皮膚について(構造、役割)
項目9	第9回	犬の被毛について(基礎知識、タイプ、構造)
項目10	第10回	犬の日常的なケアについて(目、爪、歯のお手入れ)
項目11	第11回	トリミング時の保定について
項目12	第12回	爪切り、足裏クリッピング、耳掃除について
項目13	第13回	ブラッシングについて
項目14	第14回	シャンプーとドライイングについて
項目15	第15回	商品学(グルーミング時に使うシャンプー剤などについて)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 2年	科目名 グルーミング学Ⅱ	教員氏名 森美智子(実務経験あり)
	授業時間数 15時間/年	単位数 単位
教科書名:		

講義概要: 一年時に学んだ基礎を踏まえて、犬種に応じたペットクリップ、ショークリップなどに関する高い知識の習得
到達目標: 個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回	グルーミングの必要性とトリマーの心得
項目2	第2回	トリミングのイメージの作り方と描き方
項目3	第3回	犬体用語について①
項目4	第4回	犬体用語について②
項目5	第5回	グルーミング用語について
項目6	第6回	皮膚と被毛について
項目7	第7回	犬のドッグショーの歴史
項目8	第8回	ショークリップについて(目的に応じたショークリップについて)
項目9	第9回	プードルのショークリップについて
項目10	第10回	ショー用語について
項目11	第11回	ショーで使う道具について
項目12	第12回	ショーにおける犬の扱いかた、お手入れについて
項目13	第13回	シザーリング犬種のグルーミングについて
項目14	第14回	スイニング犬種のグルーミングについて
項目15	第15回	ブラッキング犬種のグルーミングについて
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 3年	科目名 グルーミング学Ⅲ	教員氏名 森美智子(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 45時間/年	単位数 単位

講義概要: 個体毎のライフステージにあわせたグルーミングについて理解する
到達目標: パピーから老犬までそれぞれにあった負担の少ないグルーミングを学ぶ

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	ファーストリミングについて
項目2	第7回～第12回	パピー時におけるトリミングについて
項目3	第13回～第18回	成長期におけるトリミングについて
項目4	第19回～第24回	維持期におけるトリミングについて
項目5	第25回～第31回	衰退期におけるトリミングについて
項目6	第32回～第38回	老齢犬のトリミングについて
項目7	第39回～第45回	疾患持ちの犬のトリミングについて
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットマイスター学科 全コース 4年	科目名 グルーミング学Ⅳ	教員氏名 森美智子(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 120時間/年	単位数 単位

講義概要: 犬種標準で欠点とされる個体のトリミングでのカバーについて学ぶ
到達目標: 各犬種標準を理解したうえで、グルーミング実習時に欠点をカバー出来るようになる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第40回	骨格の欠点について
項目2	第41回～第80回	毛質の欠点について
項目3	第81回～第120回	体格の欠点について
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 1年	科目名 グルーミング実習 I	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 90時間/年 全90回	単位数 単位

講義概要:実習を通してベーシックの基本の技術を習得し、時間内にカットまで仕上げ、C級ライセンス取得を目指す
到達目標: 個体に応じたグルーミングが安全に行える

## 授 業 計 画

項目1	全90回	【モデルグルーミング】・爪切り・足裏のクリッピング・耳掃除・シャンプー・ドライング
項目2		【ベーシック実習】・ベーシックと足回りのカットのみ
項目3		【モデルグルーミング】・ボディのクリッピング・四肢のカット(ハサミ仕上げ)・顔のカット
項目4		【リボン製作とラッピングについて】
項目5		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって 接客実習を行う
項目6		【トリミング実習】・全身カット時間内に一頭仕上げられる
項目7		【C級ライセンス対策】 トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目8		【ショークリップについて】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・グルーマー育成・教員育成コース1 年 教科書名	科目名 グルーミング実習 I	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
	授業時間数 180時間/年 全180回	単位数 単位

講義概要:実習を通してベーシックの基本の技術を習得し、時間内にカットまで仕上げ、C級ライセンス取得を目指す より多くの頭数のモデル犬のトリミングを行い、高い技術の習得を目指す
到達目標: 個体に応じたグルーミングが安全に行える

## 授 業 計 画

項目1	全180回	【モデルグルーミング】・爪切り・足裏のクリッピング・耳掃除・シャンプー・ドライング
項目2		【ベーシック実習】・ベーシックと足回りのカットのみ
項目3		【モデルグルーミング】・ボディのクリッピング・四肢のカット(ハサミ仕上げ)・顔のカット
項目4		【リボン製作とラッピングについて】
項目5		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって 接客実習を行う
項目6		【トリミング実習】・全身カット時間内に一頭仕上げられる
項目7		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目8		【ショークリップについて】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 全コース 2年	科目名 グルーミング実習Ⅱ①	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 90時間/年 全90回	単位数 単位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標: 個体に応じたグルーミングが安全に行える

## 授 業 計 画

項目1	全90回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって接客実習を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使ってのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭仕上げられる
項目5		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目6		【B級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・グルーマー育成・教員育成コース2 年	科目名 グルーミング実習Ⅱ②	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 330時間/年 全330回	単位数 単位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標: 個体に応じたグルーミングが安全に行える

## 授 業 計 画

項目1	全330回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって接客実習を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使っでのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭仕上げられる
項目5		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目6		【B級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。



学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 3年	科目名 グルーミング実習Ⅲ	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 120時間/年 全120回	単位数 単位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標: 個体に応じたグルーミングが安全に行える

## 授 業 計 画

項目1	全120回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生への指導を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使っのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭時間内に
項目5		【A級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで時間内に行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 4年	科目名 グルーミング実習Ⅳ	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 255時間/年 全255回	単位数 単位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標: 個体に応じたグルーミングが安全に行える

## 授 業 計 画

項目1	全255回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生への指導を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使っのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭時間内に
項目5		【A級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで時間内に行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマイスター学科 全コース 1年	科目名 犬種別ペットクリップ I	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 120時間/年 全120回	単位数 単位

講義概要:犬種のそれぞれ特徴を理解し、お客様の要望を踏まえ、その犬種にあったペットクリップを実践で学ぶ
到達目標: 各犬種のカット法を理解した上で仕上げられるようになる

## 授 業 計 画

項目1	全120回	【チワワ、ダックス、パピヨン、シェルティ、キャバリアなどの犬種の飾り毛のカット】
項目2		【トイ・プードルのテディベアカット】
項目3		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目4		【ポメラニアンペットカット】
項目5		【シーズーのペットカット】
項目6		【マルチーズのペットカット】
項目7		【ヨークシャー・テリアのペットカット】
項目8		【ビション・フリーゼのペットカット】
項目9		【ミニチュア・シュナウザーのペットカット】
項目10		【アメリカン・コッカー・スパニエルのペットカット】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマイスター-学科 全コース 2年	科目名 犬種別ペットクリップⅡ	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 180時間/年 全180回	単位数 単位

講義概要:犬種の特性を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標: 犬種別ペットクリップⅠの内容に早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる

### 授 業 計 画

項目1		【トイ・プードルのティディベアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのバジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアンペットカット】
項目8		【シーズーのペットカット】
項目9		【マルチーズのペットカット】
項目10		【ヨークシャー・テリアのペットカット】
項目11	全180回	【ビション・フリーゼのペットカット】
項目12		【ミニチュア・シュナウザーのペットカット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目15		【イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアのペットクリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップ】
項目18		【ケアンテリアのペット・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアのペットクリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアのペットクリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアのペットクリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットマスター学科 全コース 3年	科目名 犬種別ペットクリップⅢ	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 75時間/年 全75回	単位数 単位

講義概要:犬種の特性を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標: 犬種別ペットクリップⅡの内容にさらに早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる 個体毎の特徴を理解し、その個体にあったカットに仕上げる

### 授 業 計 画

項目1		【トイ・プードルのティディアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのバジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアンペットカット】
項目8		【シーズーのペットカット】
項目9		【マルチーズのペットカット】
項目10		【ヨークシャー・テリアのペットカット】
項目11	全75回	【ビション・フリーゼのペットカット】
項目12		【ミニチュア・シュナウザーのペットカット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目15		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアのペットクリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップ】
項目18		【ケアンテリアのペット・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアのペットクリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアのペットクリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアのペットクリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100~90点)・良(89~80点)・可(79~60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・ゲルマー育成・教員育成コース2 年	科目名 犬種別ショークリップ1	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
	授業時間数 180時間/年 全180回	単位数 単位
教科書名:		

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す
到達目標: 各犬種のショークリップを理解し、仕上げられるようになる。

## 授 業 計 画

項目1	全180回	【トイプードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュнауザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリンガー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップペット・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショー・クリップ】
項目14		【ウェルッシュ・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマイスター学科 総合・トリマー・ゲルマー育成・教員育成コース2 年	科目名 犬種別ショークリップⅡ	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 180時間/年 全180回	単位数 単位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す 多種多様な犬種のショークリップの実習を行い、幅広く、多様性に対応できる技術の習得を目指す
到達目標: 各犬種のショークリップを理解し、より素早くキレイに仕上げられるようになる

## 授 業 計 画

項目1	全180回	【トイプードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュナウザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリンガー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショー・クリップ】
項目14		【ウェルッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目15		【ベドリントン・テリアのショー・クリップ】
項目16		【ケリー・ブルー・テリアのショー・クリップ】
項目17		【エアードール・テリアのショー・クリップ】
項目18		【レークランド・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットマイスター学科 全コース 3年	科目名 犬種別ショークリップⅢ	教員氏名 大栗里美(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 120時間/年 全120回	単位数 単位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す 多種多様な犬種のショークリップの実習を行い、幅広く、多様性に対応できる技術の習得を目指す
到達目標: 各犬種のショークリップを理解し、ドッグショーへの出陳を目指す

### 授 業 計 画

項目1	全120回	【トイプードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュナウザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリンガー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショー・クリップ】
項目14		【ウェルッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目15		【ベドリントン・テリアのショー・クリップ】
項目16		【ケリー・ブルー・テリアのショー・クリップ】
項目17		【エアードール・テリアのショー・クリップ】
項目18		【レークランド・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・グルーマー育成・教員育成コース1年	科目名 ハンドリング学I	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標: ドッグショーについて理解し、犬の見せ方を実践出来る

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーの歴史
項目2	第3回～第4回	犬に関する基礎知識(習性、心理、行動)
項目3	第5回～第6回	犬の体構造
項目4	第7回～第8回	ハンドリングの審査について
項目5	第9回～第10回	ハンドリングとは
項目6	第11回～第12回	スタックについて(テーブルでのスタックについて、テーブルでのフリースタANDINGについて)
項目7	第13回～第14回	小型犬のスタックについて
項目8	第15回～第16回	大型犬のスタックについて(犬の正面におけるフリースタANDINGについて)
項目9	第17回～第18回	リードのかけ方(種類、用途)、リードの持ち方
項目10	第19回～第20回	ムーブメント①歩様とアンギュレーション
項目11	第21回～第22回	ムーブメント②歩速とステップ
項目12	第23回～第24回	歩行について①トライアングルによる犬の見せ方 ②アップ&ダウンによる犬の見せ方
項目13	第25回～第26回	歩行パターンについて(トライアングル、アップ&ダウン、リング一周、L字、T字など)
項目14	第27回～第28回	歯の見せ方について、耳の正しいセットについて
項目15	第29回～第30回	リードワークについて
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陳経験を有

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・グルーマー育成・教員育成コース2年	科目名 ハンドリング学Ⅱ	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標: 犬種ごとのスタンダードの知識を深め、ショーのためのグルーミングの必要性を学び、各犬種の見せ方、ハンドリングの技術の習得を目指す

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて①(パウダーリング、ラッピング)
項目2	第3回～第4回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて②(ブラシング、飾り毛のカット)
項目3	第5回～第6回	テイルセットについて
項目4	第7回～第8回	ドッグ・ショーでのマナーとルール
項目5	第9回～第10回	審査を受けるときのマナーとテクニック
項目6	第11回～第12回	ドッグ・ショーにおけるパピートレーニングについて
項目7	第13回～第14回	各犬種の見せ方①シェパード・シープ・ドッグ
項目8	第15回～第16回	各犬種の見せ方②ミニチュア・シュナウザー
項目9	第17回～第18回	各犬種の見せ方③ヨークシャー・テリア
項目10	第19回～第20回	各犬種の見せ方④ミニチュア・ダックス・フンド
項目11	第21回～第22回	各犬種の見せ方⑤アメリカン・コッカー・スパニエル
項目12	第23回～第24回	各犬種の見せ方⑥ゴールデン・レトリバー
項目13	第25回～第26回	各犬種の見せ方⑦トイ・プードル、ミニチュア・プードル
項目14	第27回～第28回	各犬種の見せ方⑧パピヨン
項目15	第29回～第30回	各犬種の見せ方⑨マルチーズ、シーズー
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陳経験を有

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・グルーマー育成・教員育成コース1年	科目名 ペット造形学・美学 I	教員氏名 森美智子(実務経験あり)
	授業時間数 120時間/年	単位数 単位
教科書名:		

<b>講義概要:</b> ペット犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
<b>到達目標:</b> 犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第60回	シーゾーのデッサン
項目2	第61回～第80回	犬体模型の作製(画用紙)
項目3	第81回～第100回	犬体模型の作製(粘土)
項目4	第101回～第120回	犬体模型の作製(羊毛フェルト)
<b>成績評価方法</b> ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
<b>備考</b> (テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		<b>特記事項</b> 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トリマー・グルーマー育成・教員育成コース2 年 教科書名:	科目名 ペット造形学・美学Ⅱ 授業時間数 30時間/年 全30回	教員氏名 森美智子(実務経験あり) 単位数 単位
--	---	-----------------------------------

講義概要: ショー犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標: 犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

## 授 業 計 画

項目1	全30回	トイプードルのコンチネンタル・クリップ デッサン
項目2		トイプードルのパピークリップ デッサン
項目3		トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ デッサン
項目4		ビション・フリーゼのショー・クリップ デッサン
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 1年	科目名 ドッグトレーニング理論 I	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要: オオカミとの比較から犬が家畜化される過程の習熟を図り、ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。 脳と行動の関係について理解するとともに動物行動学に沿った具体的なトレーニング方法の選択・組み立て方を身に付ける。
到達目標: 多岐にわたるトレーニング方法の種類について各特性を理解し説明することが出来る。又、トレーニングの際に必要な各道具の知識を習得し選択することができる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	<b>犬の進化と家畜化</b> (狼との比較、伴侶となるまでの各経緯、遺伝的素質、環境要因など)
項目2	第5回～第8回	<b>学習の生物学的なしくみ</b> (大脳辺縁系、大脳皮質、成長過程・去勢避妊手術の影響、雌雄ホルモン、社会的階級制度など)
項目3	第9回～第12回	<b>行動に影響する生体物質</b> (神経伝達物質、脳内物質の役割、気質の3軸モデルなど)
項目4-①	第13回～第15回	<b>犬の言葉①</b> (聴覚・体臭・視覚によるコミュニケーション、ボディランゲージ、カーミングシグナルなど)
項目4-②	第16回～第18回	<b>犬の言葉②</b> (回避行動、能動的服従、受動的服従、先制攻撃型、守備防衛型など)
項目5	第19回～第22回	<b>学習理論</b> (古典的条件付け、オペラント条件付け、馴化、感作など)
項目6	第23回～第26回	<b>トレーニング方法</b> (強制トレーニング、直接誘導法、ルアー誘導法、キャッチング、シェーピング、逆行連鎖、ターゲットなど)
項目7	第27回～第30回	<b>犬具</b> (ハーフチョーク、チョークチェーン、ピンチカラー、リミテッド・スリッカラー、ジェントル・リーダー、イージーウォークハーネス等の各使用方法・装着方法・注意点・得られる効果など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 2年	科目名 ドッグトレーニング理論Ⅱ	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 30時間/年	単位数 単位

講義概要: 犬が起こした行動からオペラント条件付けの基本的な4つの因果関係に振り分けるとともにそれらを活用した動機付けトレーニングの学習原理の知識を習得する。
到達目標: 又、犬の許容範囲を示すために存在する様々なコミュニケーション方法について判別する知識を身に付け、カーミング・シグナルを区別することができる。LEADプログラムを使用し犬との関わりに活かすことができる。

## 授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	<b>オペラント条件付け</b> (正の強化、正の罰、負の強化、負の罰など)
項目2	第6回～第10回	<b>領域</b> (個人空間、逃走距離、臨界距離、攻撃距離など)
項目3	第11回～第15回	<b>カーミングシグナル</b> 静止画、動画、実物の犬をよく観察しカーミング・シグナルを見分けるなど)
項目4	第16回～第20回	<b>LEADプログラム</b> (注意の引き付け方、食事の管理、ゲームの管理、領域の支配など)
項目5-①	第21回～第23回	<b>学習理論①</b> (一次性強化子、二次性強化子、消去、自然回復、トレーニングのABC、オーバーシャドーイング、般化、ブレマックの原理)
項目5-②	第24回～第25回	<b>学習理論②</b> (拮抗条件付け、系統的脱感作、鋭敏化など)
項目6	第26回～第30回	<b>犬の行動を安定させるための4つのD</b> (距離、継続時間、多様性、報酬の配分など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 1年	科目名 服従訓練 I	教員氏名 矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 180時間/年 全180回	単位数 単位

講義概要: 指導手のコマンドに対し犬が従順に適応する基礎的な服従訓練を実践的に学ぶとともに、それらを活用した行動修正法の知識を習得する。
到達目標: 又、犬の性格・犬種・飼育環境等に合わせた行動改善修正法を判断・選択し改善に向けたトレーニングスケジュールを自身で組立てる知識を身に付ける

## 授 業 計 画

項目1	全180回	<b>道具</b> (首輪・リード・報酬・嫌悪刺激等のトレーニングに使用する道具を使い分ける)
項目2		<b>服従訓練</b> (CD I S家庭犬競技準初等科の内容)
項目3		<b>問題行動予防法</b> (健康状態、環境の向上、リーダーシップ、全般的な管理など)
項目4		<b>行動修正法</b> (甘噛み、トイレトレーニング、破壊行動、物を守る、防衛的攻撃行動、先制的攻撃行動など)
項目5		<b>トレーニングスケジュールの組立て</b> (犬の性格・犬種・年齢・性別・飼育環境に沿って組立てる)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 2年	科目名 服従訓練Ⅱ	教員氏名 矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ教室	授業時間数 360時間/年 全360回	単位数 単位

講義概要: 服従訓練Ⅰで学んだ知識・技術を基に訓練競技会出場に向けたより実践的な競技規則やマナーを習得する。
到達目標: 問題解決能力やトレーニング実践能力を身に付けクライアントの生活環境を基にクライアントに合った問題行動改善方法を提案・指導することができる。

## 授 業 計 画

項目1	全360回	<b>服従訓練(応用)</b> (CDⅡ家庭犬訓練試験中等科の内容など)
項目2		<b>訓練競技会</b> (競技規則、競技訓練科目、会場マナー、犬の扱いなど)
項目3		<b>クライアント指導</b> (クライアントに合わせた問題行動改善方法の指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。



学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 1年	科 目 名 アジリティ I	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 120時間/年 全120回	単 位 数 単 位

講義概要:ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び運動能力の向上を目指す。ドッグスポーツの起源を理解するとともに、アジリティの歴史から競技概要を理解する。

到達目標:

使用する障害物の名称や組立方法を習得し安全な道具設置を身に付けるとともに各障害物のトレーニング方法を習熟する。

## 授 業 計 画

項目1	全120回	<b>ドッグスポーツの概要</b> (アジリティ・ディスク・フライボール・ノーズワークなど)
項目2		<b>障害物設置基準</b> (体高別グループ分け・障害物配置基準など)
項目3		<b>各障害物のトレーニング方法</b> (陽性強化・嫌悪刺激の使い分けなど)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 2年	科目名 アジリティⅡ	教員氏名 石山由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 270時間/年 全270回	単位数 単位

講義概要: 競技会出場に向けた審査基準を身に付けるとともにトレーニングスケジュールを組み実践する。制限時間内にコースの順番を記憶し人間の立ち位置・犬の走行ルートを考案する。
到達目標: アジリティⅠで学んだ知識・技術を基により実践的な犬種・年齢等に合わせたアジリティトレーニングを習得し実践することができる。

## 授 業 計 画

項目1	全270回	<b>競技会の審査基準</b> (障害物の種類・規定時間・科目規定など)
項目2		<b>検分</b> (立ち位置、走行ルート、障害物記憶など)
項目3		<b>トレーニングスケジュールの組立</b> (細分化した目標設定、犬種・年齢・性格を考慮した組立て方など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 1年	科目名 総合トレーニング実習 I	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 120時間/年	単位数 単位

講義概要: 総合トレーニング実習 I では、「聴く力」「伝える力」「指導する力」を要するインストラクションスキルを身に付け、クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。

到達目標:

クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。

## 授業計画

項目1	全120回	<b>インストラクションスキル</b> (題材の選定・目標の把握・展開順序・指導能力など)
項目2		<b>カウンセリングスキル</b> (カウンセリングの基本姿勢・傾聴・繰り返し技法・信頼関係の構築方法など)
項目3		<b>クライアントに合わせたトレーニングスケジュールの組方</b> (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮したトレーニングスケジュールの組立て方など)
項目4		<b>クライアント指導(基礎)</b> (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮した指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 ペットビジネス・ペットマスター学科 総合・トレーナー・教員育成コース 2年	科目名 総合トレーニング実習Ⅱ	教員氏名 鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 270時間/年 全270回	単位数 単位

講義概要: 犬を使ったデモンストレーション技術を身に付けるとともにしつけ教室開催に向けた知識を習得する。
到達目標: 総合トレーニング実習Ⅰの知識・技術を基にカウンセリングからクライアントの要望に合わせたトレーニングを提案できる。

## 授 業 計 画

項目1	全270回	デモンストレーション実施 (説明・実演など)
項目2		しつけ教室開催にむけて (企画・運営など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。